

共生

奈良県生協連

2015年1月

NO.95

万葉のいぶきを求めて—(60)



ビルの谷間に鎮まる後期大極殿跡

おほみや 大宮の 内まで聞こゆ あびき 綱引すと あ ごととの 網子調ふる 海人の呼び声
ながのいみき おきまろ
長忌寸 意吉磨

「行宮（かりみや）の中まで聞こえて来ます。網を引き上げようとして、仲間を並ばせている漁師の掛け声が」

この歌は、持統・文武の難波行幸の際に歌を詠むように命じられ、長忌寸意吉磨^{みことのり}が詔に答えて詠んだ歌です。古代の大阪湾は内陸の深くまで入り込んでいましたから、宮殿（行宮）の近くまで海だったのでしょう。

難波宮は、蘇我入鹿暗殺のクーデター事件の後、孝徳天皇652年に新宮殿が完成し、大化の新政策が次々と打ち出されますが、686年大蔵省からの失火によって全て焼失してしまいます。この歌の行幸の頃は行宮であったのでしょう。この孝徳朝の難波宮は、前期難波宮と呼ばれ、その後744年、聖武天皇は難波を都と定め、これが後期難波宮と呼ばれます。現在、大阪市法円坂の一角の難波宮跡公園に後期大極殿跡が復元されています。



新年のごあいさつ

人間中心の「協同のある暮らし」を 次世代にも引き継ぎ発展させよう

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



歴史ある奈良県で活動する会員生協および組合員みなさん、あけましておめでとうございます。

昨年は春の消費税の引き上げをはじめ、大企業の好調とは裏腹の厳しい暮らしの年となり、経済数値の低調からも年末には次期消費税引き上げ延期の表明とともに、急な解散総選挙の年となってあわただしく暮れました。結果は問題を抱えたまま、なかなか流れを変えるような政治的变化には至らず、これからも、地道な改革の活動を積み上げてゆくしかない状況となりました。私たちは暮らしの中にしっかりと根を張り、組合員の皆さんとともに、暮らしの質の向上を目指して運動を進めてゆくことが大切です。

最近注目されることは、マララさんの指摘にもある世界における子どもの教育を中心とした人間形成での問題点と同様に、経済や文化が発展しているはずのこの日本においても格差社会の広がりが進行し、増加中の母子家庭を中心に子どもの教育に大きな格差が広がっていることです。また子どもだけではなく高齢社会においても格差問題は今後さらに深刻となる様相を呈しています。まさに協同の精神がおろそかにされる政治、社会風潮が進行しつつあることが懸念されます。人と人とのつながりを大切にする協同組合としては、実践においてその活動を進めるとともに、行政や政治においてもその状況が改善されるような活動を広げ、支援してゆくことが必要です。そのような形で、協同のある暮らしをしっかりと構築し、次世代にも引き

継ぎ発展させてゆくことが、ますます重要になってきていると感じます。

具体的な活動としては、より良い商品をみんなで作くり出し購入してその経済力と協同する人の力を活かして活動を進めることであり、震災や洪水などの被害者や社会の再構築の支援、「吉野共生」「地域産直」も含めた地域の活性化、高齢者・子ども他弱者救済の福祉の活動を行政との連携で進めること、困った時の共済や健康づくりと医療の充実を協同で強めること、等々が挙げられます。注目されるエネルギー政策の在り方を含めて、これからの社会を、資本が中心ではなく、人間を中心とした経済・社会を協同の力で構築してゆくことが必要です。

世界では今年のNPT再検討会議に向けて、いよいよ「核兵器禁止条約」の締結に向けた準備が進められる状況となりました。これは核兵器の非人道性の明確化が、昨年10月の日本の国連共同声明賛同にも示されるように世界の大潮流となり、12月の国際会議には米国が核保有国として初めて参加する流れとなったことにも示される大きな転換点に来たということであり、まさに人間が中心であることが再確認されてきたことができます。私たちはこれを、「人間・市民が中心となる社会」への回帰の突破口として、しっかりと生かしてゆかねばなりません。

新しい年に、あらためて生活協同組合の活動の重要性をみんなで認識し、協同のあゆみを着実に進めてまいりましょう。

もくじ

新年のご挨拶 瀧川潔生協連会長	1
新年のご挨拶 荒井正吾奈良県知事	2
食の安全懇談会	3
ピースアクション in なら	4
なんゆう祭	5

自然エネルギー学校	6
おじゃましました・奈良県医療福祉生協	7
生協・行政協議会	8
3.11をわすれない	9
医療福祉のページ	10



平成二十七年 新年ごあいさつ

奈良県知事 荒井 正吾



奈良県生活協同組合連合会の会員生協及び関係者の皆さま、明けましておめでとうございます。

平成二十七年の年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年秋には、第三十四回全国豊かな海づくり大会～やまと～が、天皇皇后両陛下ご臨席のもと県南部で開催され、多くの方々にご参加いただきました。県民の皆さまには、行催事の開催等にご協力いただき、改めて感謝申し上げます。

本年も、「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ことを県政の目指すべき目標として、以下の施策を推進するとともに、その実現のために精一杯取り組んでまいりますので、引き続きお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

本県独自の地方創生の実現

人口減少克服と地方創生の実現に向け、国の動きとうまくマッチングさせながら、本県独自の取組を積極的に進めます。

産業の分野では、3つのリーディング産業と6つのチャレンジ産業に焦点をあて、産業振興に積極的に取り組みます。特に宿泊産業については、県がイニシアティブをとり、意欲のある宿泊施設と連携・協働して活性化を図ってまいります。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、文化発信、インバウンド、スポーツ振興、にぎわいの拠点整備などにも取り組み、本県経済の持続的な発展につなげてまいります。

くらしやすい奈良の創造

貴連合会、特にならコープ様におかれまして、県下の市町村との間で高齢者の生活支援に

関する連携協定の締結を進めていらっしゃることに、深く敬意を表するとともに、改めて感謝申し上げます。

県におきましても、高齢者が尊厳を保ちながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・福祉関係者、市町村と連携を図りつつ、医療・介護・生活支援サービス等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいります。

また、県民の皆さまの健康長寿を願って昨年オープンした「まほろば健康パーク」の活用を促進するなど、健康寿命を延ばすための施策を市町村等とともに進めてまいります。

県南部・東部地域の振興

県南部・東部地域特産品の生産・販売の振興及び県南部・東部地域の魅力発信のために開催いたしました「なんゆう祭」におきまして、貴連合会及び各組合の皆さまには、昨年引き続き、多大なご協力、ご支援をいただきましたことを心からお礼申し上げます。

紀伊半島大水害からの復旧については、「復旧・復興」から「地域の振興」へとステージを移し、「交流」と「定住」を二本柱とした県南部・東部地域の更なる振興に、積極的に取り組んでまいります。

これからも、県民の皆さまのご意見やご提案に十分耳を傾け、皆さまとともに、より良い奈良の未来を築いてまいりたいと考えています。重ねて皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、奈良県生活協同組合連合会及び各生活協同組合のますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。



2014年度

食の安全懇談会を開催しました

～食品表示をめぐる最近の情勢とこれからの課題～

2014年10月29日(水)奈良県文化会館にて、日本生協連の鬼武一夫氏および、奈良県消費・生活安全課や近畿農政局奈良地域センターの食品表示にかかわる担当者を講師に招き、「食品表示」をテーマに2014年度の食の安全懇談会を開催しました。会員生協などから31名が参加し、食品表示をめぐる最近の情勢とこれからの課題について学びました。



鬼武一夫氏 講演の様子

食品表示法が2013年6月28日に公布され、2015年6月ごろに新法が施行される予定です。これにより、これまでバラバラであった「食品衛生法」「JAS法」「健康増進法」に基づく表示に関する規定が統合され、目的規定を含め食品の表示に関する包括的かつ一元的な制度が創設されることとなります。現在消費者委員会で検討がすすめられている食品表示基準の進捗状況などについてお聞きすることができ、これまでの法制度や消費者の取り組みを振り返りながら、食品表示について考える機会となりました。

奈良県消費・生活安全課
姫野 隆昭 課長あいさつ同食品安全推進係
大月 翼 氏同消費者行政係
夏秋 智行 氏近畿農政局 奈良地域センター
中部 久嗣 氏

プログラム

「食品表示について～食品表示をめぐる最近の情勢とこれからの課題」

日本生協連 安全政策推進本部部長 鬼武 一夫 氏

奈良県における食品表示適正化の取り組みについて

奈良県消費・生活安全課食品安全推進係 大月 翼 氏
消費者行政係 夏秋 智行 氏

近畿農政局奈良地域センターにおける食品表示の適正化に向けた取り組み

奈良地域センター消費・安全グループ総括表示・規格指導官 中部 久嗣 氏

質疑応答および各生協の食の安全に関する取り組み報告

食品衛生法、健康増進法、JAS法、景品表示法などを一括して消費・生活安全課という一つの課で、ワンストップで管轄している県行政は少なく、当初は奈良県だけでした。食品衛生法、健康増進法は、保健所が実質の管轄で、JAS法は奈良県消費・生活安全課が管理しています。

各生協とも食の安全にはそれぞれこだわりがあり、取り組みの報告がありました。実施したアンケートでは、「食品表示法の歴史をたどるとずいぶん変化してきていることがよく理解できた」「社会全体が食の安全を確保できるようになってほしい」「消費者も新しい食品表示法を学ばなければいけないと思った」「どこにこだわるのか考える力が試されているような気がします」などの感想が出されました。

2015年NPT再検討会議に向けたスタート学習会・ピースアクションinなら

安齋育郎氏講演会を開催しました

10月11日(土)奈良市北部公民館 市民ホール

～子どもたちに残したい 核兵器のない世界をめざして～

★「ピースアクションをすすめる会」(奈良県生協連と会員生協、ならコープ平和の会、ならコープ with ユニセフの会で構成)は10月11日、奈良市北部公民館で「ピースアクションinなら」を開催しました。「核兵器のない世界をめざして」をテーマに、2015年4月に開催されるNPT(核不拡散条約)再検討会議に向けたスタート学習会として企画し、89人が参加しました。オープニングでは、ならコープサークル「もっちいず」の皆さんによる被爆体験記の朗読の声が、静かな雰囲気の中で参加者の心にひびきました。

★学習講演として、原子力の専門家であり平和や憲法問題などの講演で活躍されている安齋育郎氏(安齋科学・平和事務所所長)のお話を聴きました。安齋先生はスプーン曲げなどの手品を披露、いかに人間が目の前の事象に騙されやすいかを指摘されました。そして「平和」とは「戦争のない状態」ではなく「直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力」という3つの暴力のない状態にすることであり、なかでも最大の直接的暴力である核兵器はなくしていかねばならないと強調。そのための署名運動は決して無駄ではなく、無視できないほど多数の声を集めることが大きな力となると話されました。これから奈良で進めようとしている署名や学習の取り組みに勇気をいただきました。

★その後すすめる会メンバーの堀江陽子さんから、これまでのNPT再検討会議についての取り組み報告がありました。また2015年再検討会議生協代表派遣団に参加が決まった、奈良県生協連の代表・村上泰三さん(奈良教育大3回生)、ならコープ代表・小比賀博美さんの二人が紹介されました。村上さん、小比賀さんは平和への思いや代表としての決意をそれぞれ語り、会場から大きな応援の拍手が送られました。

★参加者からは「講演がとてもわかりやすく興味深く聴けた」「私たちにできることを頑張りたい」などの感想が寄せられ、代表派遣の二人には「若い感覚で世界の人とふれあってほしい」「報告を楽しみにしている」「応援しています」などのメッセージもいただきました。



安齋 育郎 先生



「もっちいず」による詩の朗読



NPT再検討会議の取り組み報告

**平和首長会議への加盟が
奈良県内で38自治体に**

2014年11月現在

世界に核兵器の非人道性を訴え、核兵器廃絶の運動をリードしている国連NGO「平和首長会議」は、世界160カ国・地域、6,435都市が賛同しています。ピースアクションをすすめる会でも、市民にもっとも身近な存在である自治体の一つでも多く平和首長会議に加盟してほしいとの思いで、奈良県内で呼びかけを行ってきました。賛同の輪は着実に広がり、最近では11月に大淀町と天川村が加盟されました。そして現在、奈良県内では39市町村のうち38市町村が加盟をしています。

**代表二人の応援を
おねがいします!!**

村上泰三さんと小比賀博美さんの二人は4月24日から7日間、ニューヨークで被爆者の方々をサポートしながら現地活動を行います。出発までできるだけ多くの人と平和について語り合えばいいですね。学習会への参加、核兵器禁止条約交渉開始署名、派遣募金などに是非、ご協力ください!

ピースアクションで
決意表明する
村上さんと
小比賀さん

なんゆう祭2014&全国豊かな海づくり大会に参加しました

奈良県の南部東部を活性化するイベント「なんゆう祭2014」が10月5日、五條市の河川敷で開催されました。地域特産品の生産販売の振興を図るとともに、地域の風土・歴史・文化に根差した魅力を発信する目的でひらかれ、今年は2回目の開催になります。奈良県生協連は吉野共生プロジェクト（ならコープ、JAならけん、奈良県森林組合連合会、奈良県生協連の4者で進める吉野地方を応援するプロジェクト）のブースに出展し、取り組みを紹介しました。ブースには吉野町小水力利用推進協議会からお借りした「ピコ発電」の水車や、ペレットストーブの展示があり、大人から子どもまで多くの人々が訪れて再生可能エネルギーに関心を寄せました。また奈良県医療福祉生協は健康チェックを行い、100名を超える人たちが血圧や体脂肪を測定して自分の健康について考えました。



ゆるきゃらショー

台風による大雨が心配される中でしたが大きな崩れはなく、約2万人の人が、地元産品の販売や模擬店、ゆるきゃらショーなどを楽しみました。

また、11月16日には、「ゆたかなる 森がはぐくむ 川と海」をテーマに、「第34回豊かな海づくり大会」が奈良県南部地域で開催され、奈良県生協連もならコープとともに五條市会場に参加しました。



奈良県生協連の県南部再生可能エネルギー施設見学会報告パネル



奈良県医療福祉生協による健康チェック



海づくり大会五條会場・魚の放流

ご案内 第25回奈良県生協大会 地域共生社会をもとめて PART2 ～森・水・エネルギー・人のきずな～

岡山県真庭市の森林資源を生かしたまちづくりの取り組みのお話をきき、人々の協同と連携がもつぐくらしの未来の姿を考えます。

【開催日時】2015年2月7日(土)
14:00～16:30 (開場13:30)

【開催場所】奈良商工会議所 5階大ホール

【後援】奈良県、奈良市、奈良県森林組合連合会

【定員】150名

【プログラム】

講演「真庭市のバイオマスタウンの取り組みについて」
真庭市長 太田昇氏

事例報告「奈良県における木質バイオマスの取り組み」
奈良県森林組合連合会 専務理事 北野享司氏

会員報告：くらしづくり・まちづくりの活動

お申込み 奈良県生活協同組合連合会
TEL：0742-34-3535 FAX：0742-34-0043

ならNPOフォーラム 「里山資本主義を奈良に」 が開催されました

11月22日ならNPOフォーラム「里山資本主義を奈良にV.L. 3」(主催：奈良NPOセンター・協力：近畿労金、奈良県生協連・後援：ならコープなど)が桜井市立図書館にて開催され120名が参加されました。

「バイオマスタウン真庭の取り組み」について、中島浩一郎氏(真庭市銘建工業社長)が基調講演を行い、その後「里山資本主義を奈良に」をテーマに、奈良県奈良の木ブランド課、奈良県森林組合連合会、桜井木材協同組合、中島浩一郎氏によるパネルディスカッションが行われました。奈良県生協連も協力団体として参加しました。



「自然エネルギー学校・なら」が開催されました

奈良県生協連共催の「地域未来エネルギー奈良*」による「自然エネルギー学校・なら」が2014年10月19日、11月1日、11月29日の3回連続講座で開催されました。

(※ならコープの屋根で市民ファンドによる恋の窪未来発電所を設置した団体)

- 第1回 自然エネルギー導入の概要・動向を知ろう
(ならコープ本部会議室)
- 第2回 自然エネルギー導入の現場を見よう(大淀町、吉野町)
- 第3回 自然エネルギー事業を考えよう
(ならコープ本部会議室)



会場は、恋の窪未来発電所のあるならコープ本部

奈良県内において低炭素社会の実現と地域におけるエネルギー自給をめざし、地域で再生可能エネルギーの導入に向けて取り組もうとしている人に“学びの場”を提供し、再生可能エネルギー導入に向けた企画・実践を促すことを目的に開講され、16名の方が熱心に受講されました。



第1回 和田武氏 講義
自然エネルギーの動向を知ろう



第2回 自然エネルギー見学会
吉野町三茶屋手作り水車



大淀町木質チップ工場



第3回 自然エネルギー
事業を考えよう

奈良高等工業専門学校の先生方と 吉野町殿川地区の小水力利用現場の見学



住民手作りの水車を見る
(殿川公民館前)



住民主体の防災拠点づくりをめざしている

会員生協理事長交流会での会話がきっかけで奈良県吉野地域の小水力利用の現場を見る見学会(主催サークルおてんとさん)に奈良県生協連がつなぎ、ものづくりの専門家の視点で参加していただきました。支援のあり方を模索していきます。

関西消費者団体連絡懇談会* 関西電力・大阪ガスとの定期懇談会に出席

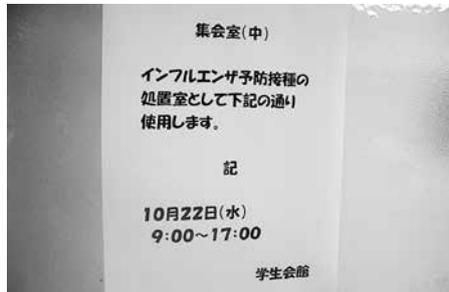
*全大阪消団連が事務局。コンシューマーズ京都、安全食品連絡会、奈良県生協連などがメンバー

2014年11月10日関電会館(肥後橋)にて関西電力の定期電気事業経営問題懇談会に出席しました。関西電力からは15名、関西消費者団体連絡懇談会からは12名が出席しました。原子力発電所や、再稼働に対する考え方、日本原子力発電に対しての債務保証への考え方、「大飯原子力発電所運転差し止め請求にかかる福井地方裁判所判決」への対応、再生可能エネルギーなどについて意見交換しました。

● 2014年11月19日大阪ガス本社南館(淀屋橋)にて大阪ガスの定期懇談会があり出席しました。
● 出席者は、大阪ガスからは11名、関西消費者団体連絡懇談会からは12名。「大阪ガスの安全・安心への取り組み」の報告がありました。ガス事業の自由化のこと、消費者へのガス料金値下げなどによる還元、CO₂の視点からの新規建設の石炭火力発電所の考え方、電力事業への参入などについて意見交換をしました。

おじゃましました～奈良県医療福祉生協の巻～

奈良教育大生協と奈良県医療福祉生協と奈良教育大との連携で インフルエンザ予防接種が実現！



2014年10月22日 奈良教育大生協と奈良県医療福祉生協（以下、医療福祉生協）と奈良教育大学との連携で、初めて奈良教育大学構内でインフルエンザの予防接種が実施されました。

昨年度の奈良県生協連の理事会において、学生の保健予防と福利厚生のために、医療福祉生協が大学生協とタイアップして、「インフルエンザ予防接種」ができないかとの提案が出され、その提案を奈良教育大生協が受けて、今回初めて実現しました。奈良教育大生協の組合員であれば医療福祉生協の組合員価格が適応され3者の連携で実現されました。

会場は、学生会館2階に設営され、当日は、57名の申し込みがあり、発熱などでお断りした方や都合がつかなかった方もあり、49名の方が予防接種されました。

事前に大学や附属幼稚園、付属小学校、学生も含め、学内メールで予防接種のことが広報されました。

予防接種された方は、附属幼稚園の先生や大学の先生など教職員関係者は半数でした。学生の夏休み期間中ということもありましたが、残り半数は、学生さんだったそうです。

「『なつきょんカード
(奈良教育大生協カード)』
もっていますか?」



予防接種を受けた方にお聞きしました

●附属幼稚園の先生

大学からの案内で受けにきた。選択の時間がもっと広がればもっと受けにくる方がいると思う。予防接種の時期が早いとのことで受けない先生もいらした。

●大学の先生

待たなくともいい、他の病気を移されずに済むので、とてもよい。体制が無理とも思うが、選択日や時間が広がればもっと受けにくると思う。

●大学生

毎年受けてきた。下宿生なので病院がわからず自宅生に紹介してもらっていた。学内でできるので大変便利です。



11月12日(水) 奈良県文化会館

2014年度 第2回 生協・行政協議会

＝県への要望書について意見交換しました＝

11月12日、今年度第2回目の生協・行政協議会を開催しました。奈良県くらし創造部消費・生活安全課から4名の出席をいただき、奈良県生協連が10月に提出した「2015年度県政への要望書」について県生協連理事・監事と意見交換しました。要望書は毎年度、関係各課にまたがり多岐にわたる項目となっていますが、今回も一つ一つ丁寧に回答をいただきました。特に食品の安全や消費者問題については、より安心な市民生活への思いは行政も生協も共通ということもあって、県内食材の周知・普及や消費者教育推進での連携など、互いに協力できる点などについて活発に意見が交わされました。また本協議会の持ち方については、



協議時間の不足、要望書提出時期と県政反映時期とのタイムラグなどの問題提起が出され、今後改善の検討をすすめていくことになりました。

2015年度県政への要望のポイント

- 食品の安全と安心について
 - ・食品衛生検査体制の充実を
 - ・ホテルのメニューなど食材表示の信頼性確保のための事業者指導を
 - ・消費者目線でリスクコミュニケーションを
- 医療・介護制度改定に伴い、市町村のサービス充実に向けた支援施策と生協との連携を
- 再エネ普及拡大に向け市民の取り組み応援を
- 消費者行政の充実強化について
 - ・高齢者・障害者被害をなくすためネットワークの推進を
 - ・消費者教育推進は教育機関との連携と多様な担い手の参加で
 - ・なら消費者ねっととの連携強化を
- 防災・減災の取り組みについて
 - ・災害時物資供給のための定期的なコミュニケーションを

11月21日(金) 福井県で開催

第26回 近畿地区生協・行政合同会議

テーマ:『地域・行政とのネットワークでくらしの安心づくり』

＝消費者市民社会をつくり動かすための情報共有がすすみました＝

11月21日福井商工会議所にて近畿地区生協・行政合同会議が開催され、近畿地区7府県の担当行政及び生協連関係者42名が集いました。厚労省近畿厚生局健康福祉部長野本宏氏から昨年度の生協指導検査において出された生協運営上の主な留意点について報告がありました。

特別報告は、弁護士島田広氏による「みんなでつくり、動かす消費者市民社会」で、「倫理的視点を重視した消費行動が社会を変えていく」というお話は、生協が協同組合運動をすすめるうえで大きな示唆となる内容でした。

また4つの事例報告があり、①「京都府における消費者教育の取り組み」と②「大学生によるくらしのヤングクリエイターの取り組み」の報告は、消費者教育推進における行政との連携、若者の主体的参画の事例として参考になりました。③「おいしいふくい食べ切り運動」は特別報告に関連した倫理的視点での消費者教育、④「消費者支援機構関西の活動報告」は2013年に成立した集团的消費者被害救済制度の動向について詳細が報告されました。

その後、参加者からの質疑があり、消費者教育の推進と消費者市民社会づくりをすすめるにあたっての問題意識や意見が交わされました。



2014年12月5日

3.11 を忘れない。

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

スピードアップが求められる復興事業

誰もが経験したことの無い甚大な被害をもたらした東日本大震災。行政も、地域の再生・復興のために懸命な努力をしています。今回は、気仙沼市震災復興・企画部の鈴木忠春課長に復興の進捗状況についてお話を伺いました。

小山のような盛土の間をダンプが往来し、重機が動き回っています。浸水した土地を再び生活や仕事の場にするための高上げ工事です。高台では山を切り崩して宅地造成工事が進みます。インフラ整備を経て、家や店舗・工場を建てるのはさらにその先になります。

宮城県の防災集団移転促進事業の進み具合を見ると、196地区のうち住宅建築が可能になったのは42地区しかありません（※注）。被災地の復興はまだこれからであることが分かります。

約9,500世帯が被災した気仙沼市では、住宅再建の復興事業に加速がついています。「入札や他の事業との関係で多少の遅れが出ているところではありますが、おおむね予定通りに進んでいます」と鈴木課長が進捗状況を説明してくれました。

「ただ、ここに至るまで時間がかかっていますから、被災された皆さんは、今か今かと待ち望んでいるわけです。毎日のように防災集団移転の造成地を見に来て、“今日は重機が何台動いてるね”と話していく人もいます。そんな話を聞くと、我々の仕事の段取りが悪くて遅れることだけではないように、と思いますね」。被災自治体の職員の多くがそうであるように、鈴木課長も被災者の一人です。住民と気持ちを共にしながら、今後も復興事業を担う強い想いを感じました。

「平成27年度までが集中復興期間とされているのですが、復興事業はこれからも続きます。国には集中復興期間を延長したり、28年度以降も潤沢な予算を確保してほしいと要望を出しています」。

マンパワーも必要です。「予算があっても、人手がないと事業は進みません。現在も全国の自治体から応援に来ていただいています。計画通り復興を進めていけるよう、これからも応援をお願いしたいと思っています」。

道半ばの復興事業。予算と人材の集中で加速させていくことが求められています。

（※注）2014年10月31日現在（宮城県、復興の進捗状況より）

情報提供／みやぎ生協



広大な土地の高上げ光景を見ると、震災で失われたものの大きさが分かる。水産加工施設の集積が計画されている南気仙沼地区



「市役所に限らずボランティアなどで全国から多くの方々から応援に来てくださったのが励みになりました」と話す気仙沼市 鈴木忠春課長

シンポジウム「避難者の今を考える」が開催されました

シンポジウム「避難者の今を考える」（主催：奈良NPOセンター、協力団体：奈良県生協連、ならコープ、コープ自然派奈良など）が11月15日に奈良市で開催されました。「被災した町で生きる人とともに歩んだ3年」をテーマに、米倉一磨氏（NPO法人相馬広域心のケアセンターなごみ）の報告の後、「奈良で避難生活をする人とともに」をテーマに、奈良県内の被災者を支援する4団体の活動紹介と意見交換が行われました。東日本大震災から3年8ヶ月が過ぎましたが、奈良県内には今も161名の方が避難生活をされています。奈良県生協連は、震災直後から県内の諸団体とともに支援活動に協力してきましたが、今後も奈良県被災者の会等のみなさんとともに支援に協力していきます。



第2回 「いきいき健康祭り」に行ってきました *

11月24日(月)晴天に恵まれ、第2回「いきいき健康まつり」が奈良県医療福祉生協で開催されました。みみなし診療所生協ホールでは健康チェック(血圧・体脂肪149人、骨密度91人)のほかに、眠りの相談(ふとんの中島30人)、視覚チェック(フジ医療器30人)、くらしの保障相談(全労済310人)、管理栄養士による栄養相談9人、足裏健康体操(サークル紙風船)に大勢の参加者があり終日にぎわいました。参加者先着300名に歯ブラシと使い捨てカイロのプレゼントも準備されていました。



健康チェック



足裏健康体操



栄養相談



くらしの保障

西側駐車場では、医療福祉生協委員会から、豚汁やさつま芋のスイーツが出され、ならコープ、コープ自然派奈良やみみなし店からも模擬店が出店されました。また、組合員のフリーマーケットも健康まつりを盛り上げました。東京から半年前に引越してこられたという方が「楽しそうなので寄りました!健康チェックもやってもらってきましたよ。」と話してくださり、だれでも立ち寄れる身近な診療所として地域に根付いているようでうれしくなりました。参加者500人と大盛況となりこれからのみみなし診療所の活動が楽しみになる一日でした。



西側駐車場の模擬店とフリーマーケット

健康チャレンジ2014

地域まるごと健康づくり運動として、この秋、9月から始まった「健康チャレンジ2014」も3か月となり、のべ116名(12月19日現在)のチャレンジ結果が届いています。「ウォーキングコース」「きちんと歯みがきコース」のチャレンジが人気となっており、チャレンジシートもしるしをつけたり、シールを貼ったりと色々な工夫をされてチャレンジを楽しまれた方がたくさんおられました。「継続することが難しかったですが、機会をみてまたチャレンジしたいと思います。」と感想も寄せられました。

シートの出し忘れはありませんか?途中で挫折された方も、ぜひ、それぞれの生協もしくは、奈良県医療福祉生協へお持ちいただき、ぜひ、健康づくりのアドバイスシートと参加賞をお受け取りください。



県連日誌

10月

- 1日 第3回近畿の消費者学習討論集会
- 2日 関西地連運営委員会。
- 2日 県連活動推進会議。
- 5日 なんゆう祭
- 11日 ピースアクション in なら (安斎育郎氏講演会)
- 19日 自然エネルギー学校・なら (第1回)
- 21日 ピースアクションをすすめる会
- 23日 奈良県生協連上期監事監査
- 24日 なら消費者ねっと運営委員会
- 27日 奈良地区大学部会
- 29日 食の安全懇談会

11月

- 1日 自然エネルギー学校・なら (第2回)
- 10日 関西電力定期懇談会
- 11日 財政モニター会議
- 12日 奈良県生協連第4回理事会
- 12日 2014年度第2回生協行政協議会
- 15日 シンポジウム「避難者の今を考える」
- 16日 全国豊かな海づくり大会
- 17日 吉野共生推進PJ
- 18日 ピースアクションをすすめる会
- 19日 大阪ガス定期懇談会
- 21日 近畿地区生協府県連・行政合同会議
- 22日 「里山資本主義を奈良に」(ならNPOフォーラム2014)
- 24日 医療福祉生協健康まつり
- 26日 地方消費者グループフォーラム実行委員会
- 26日 奈良地区大学部会
- 27～28日 福島支援交流会
- 29日 医療福祉生協中計全体会議
- 29日 自然エネルギー学校・なら (第3回)

12月

- 1日 近畿農政局消費者団体意見交換会
- 4日 関西地連運営委員会
- 4日 県連活動推進会議
- 5日 近畿地区生協府県連協議会
- 6日 医療福祉生協中計学習会
- 7日 大学生協京滋・奈良ブロック大学生協フェスティバル
- 10日 なら消費者ねっと運営委員会
- 17日 近畿労金と生協府県連合同会議
- 22日 吉野共生推進PJ
- 22日 奈良地区大学部会



奈良県生協連 第4回 理事会報告

2014年11月12日 奈良県文化会館

【主な審議事項】

1. 第25回奈良県生協大会開催に関する件(第2次)
2. ピースアクション in ならの報告と今後のNPT再検討会議にむけての取り組みについて

3. その他事項の件

- ① 2014年度奈良県生協連会員生協役職員研修について
- ② ミュージカル「リバーヘッド」への後援名義使用の件
- ③ 「オープンスペース もうひとつの学び舎」への後援名義使用の件
- ④ 「避難者の今を考える」への協力名義使用の件

編集後記

昨年11月の福島支援交流会で、食と農、漁業林業、生協、大学、行政諸機関、あらゆる分野の知恵と力を結集した協同で、復興のために闘い続ける人々の姿をみました。東日本から4年近く、阪神淡路大震災からは20年の月日が経ちますが、復興への意思と協同の心を風化させることなく、たすけあえる社会に！今年には心あたったかな年にしたいものです。(由)

昨年は母を亡くし、東京にいる八十八の父の家と奈良を往復することが多くなりました。どんな街が変わっていく東京とあまり変わらない奈良。生活スタイルが全く違う街ですが、どこでも住めば都です。(順)

暮れから新年に色々な人に声をかけてもらったのをいいことに、あちらこちらに出没しています。今年も忙しい一年になりそうです。(佳)

ついに「じいじい」に。寝顔を見ているときませんが、おむつにお風呂、ミルクと少々寝不足の毎日です。健やかに育つことを願いつつ、この子たちに平和で明るい社会を残したい。(和)